

[2012年4月26日 (VOL.45 NO.17) p.26]

第15回日本ワクチン学会

帯状疱疹の2回発症は女性および60歳代に多い

帯状疱疹の2回発症はまれとされるが、富山大学ウイルス学の白木公康教授らは、外山皮膚科（宮崎県）の外山望院長の協力を得て行った調査から、初回発症5.57/1,000人年に対し2回発症は1.81/1,000人年の頻度で確実に存在し、初回発症と同じく女性に多く、60歳代から増加する傾向があるなどの特徴を示した。発症間隔については、50歳以上になると若年者よりも有意に短くなるとしている。

50歳以上の発症間隔短い

白木教授らは以前、宮崎県の帯状疱疹発症者4万8,388例（1997～2006年）のデータから（1）発症率は4.15/1,000人年（2）70歳代では約8/1,000人年と高齢者に多い（3）女性に多い一ことを報告した。今回は2009年6月～11年10月に施行した2回発症調査から特徴を解析。検討期間中の同県の帯状疱疹1万3,839例中6,426例（46.4%）が、同調査に参加した10機関を受診。そのうち371例（5.77%）が2回発症だった。3回発症（8例）、4回発症（2例）も少数ながら認められた。

まず、前回の1997年からのデータを含めて帯状疱疹の既往を見ると、発症者は年々蓄積していき、90歳超では46.4%が経験していることが分かった。初回・2回発症とも女性で有意に多いことには変わらないが、初回発症が平均5.57/1,000人年で50歳から急増するのに対して（ピークの80歳代では18/1,000人年）、2回目発症は平均1.81/1,000人年と頻度こそ少ないが、60歳代で増加していることが確認できた。

発症間隔については、初回から2カ月と短い症例から、数十年後という症例まで幅広く認められるが、年齢別に見ると、初回発症50歳までの2回目発症まで平均期間が約20年であるのに対し、初回発症が60歳以降では平均7.6年（中央値6年）で、50歳以上の発症間隔は、50歳未満より有意に短くなっていた。

さらに、発症部位については初回同様2回目も全身に及んでいた。同部位発症は382部位中57例だったほか、発症間隔が短い症例でも必ずしも同部位に発症するのではないことから、2回発症は再燃ではなく、再発には潜在ゲノム数が関与している可能性が考えられた。

以上をまとめて、同教授は「帯状疱疹の2回目発症は外来患者の6%程度に存在する。女性および60歳代で頻度が高く、部位は全身に及んでいた。また、帯状疱疹の既往者の発症は、未発症者より低いことも確認できた」と述べた。



新着掲載記事

- ◆ ご存じですか？「がんサバイバー」の定義 (5/2)
- ◆ ベリー類高頻度摂取で高齢女性の認知機能低下が1.5～2.5年抑制 (5/2)
- ◆ 関節リウマチにおけるBioのエビデンスは十分？ (5/1)
- ◆ 関節リウマチ適応のBio, 安全性最優先でエビデンスが累積 (5/1)
- ◆ 家族性高コレステロール血症は成人と小児の診断基準を作成 (5/1)

もっと見る



マルチメディア情報を用い、製薬企業からの有益な情報をMT Pro会員医師へご紹介

過去1週間のアクセス上位記事

【4月30日～5月6日】

- 1 動脈硬化性疾患予防GL改訂、絶対リスク採用し患者の層別を鮮明に
- 2 高リスクの高LDL-C血症、スタチンへのEPA・エゼチミブ併用を推奨
- 3 片頭痛予防に対する2つの薬物療法ガイドラインが同時改訂
家族性高コレステロール血症

4 は成人と小児の診断基準を作成

5 ADA・EASD高血糖管理アルゴリズムの改訂ポイント

[月別ランキングを見る](#) 